

第3期 海士町地域福祉活動計画



社会福祉法人海士町社会福祉協議会

第3期 海士町地域福祉活動計画 目次

海士町社会福祉協議会会長挨拶	2
海士町地域福祉活動計画策定委員長挨拶	3
何故、地域福祉活動計画が必要なのか？	4
今までの地域福祉活動計画はどうだったのか？	5
現在の海士町から考えられること	6
海士の地域・福祉の未来を考える会	7
見えてきた理念	8
□×福祉	14
福祉課題への対応	16
まとめ	17

はじめに

社会福祉法人 海士町社会福祉協議会
会 長 榊原 信也



社会福祉協議会は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。昭和 26 年（1951 年）に制定された社会福祉事業法、現在の社会福祉法第 109 条に基づき、全国の都道府県や市町村に設置されています。地域に暮らす皆様のほか、民生委員・児童委員、社会福祉施設・社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加・協力のもと、地域の人びとが住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のしまづくり」の実現をめざしたさまざまな活動をおこなっています。

海士町社会福祉協議会は昭和 44 年に誕生し、各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや福祉会の支援、共同募金運動への協力など、地域の福祉増進に取り組んでまいりました。平成 9 年には保健福祉センターひまわりに拠点を移し、住民皆さまには「ひまわりの職員」として親しまれています。時代とともに多様な形に変化する地域の福祉課題に対応すべく、私ども海士町社会福祉協議会は地域福祉活動計画を策定し、住民の皆さまと一緒に福祉課題に取り組んでまいりました。

今回策定しました第 3 期計画は、福祉に関わりの強い方々だけではなく、海士町で活躍されている多種多様な業種の方々に参加していただき、「海士の地域・福祉の未来を考える会」としてご検討いただきました。「福祉×（ ）」を理念とし、地域や福祉を専門職だけでなく、島全体に福祉マインドが広がる仕組みのご提案ができたと思います。「学び」や「つながり」を福祉にかけ合わせるにより住民一人ひとりへ福祉マインドをもっていただき、「（ ）×福祉」では各種団体や業種に福祉を取り入れて、一緒に福祉のまちづくりを考えていただく提案をさせていただきました。海士町社会福祉協議会は平成 27 年度から 5 年間、この計画に基づき全職員が一丸となって福祉のしまづくりに取り組んでまいります。皆さまにはより一層の、ご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、計画策定にあたり多大なるご尽力をいただきました海士の地域・福祉の未来を考える会の阿部裕志委員長始め各委員の皆様、インプロをご指導いただきました鈴木聡之様、関係各位の皆様に対し心よりお礼申し上げます。

（平成 27 年 3 月）

「生き生きと死ねる島」へと向かう福祉のこれから

海士の地域・福祉の未来を考える会 委員長
阿部 裕志（株式会社巡の環 代表取締役）

海士の地域・福祉の未来を考える会の一員としてお声掛けをいただき、関係者の皆様には大変お世話になりました。心から感謝を申し上げます。当初、福祉に対してまったく知識と経験がない自分に務まるのだろうかと思案しました第3期海士町地域福祉活動計画を策定するにあたり福祉関係者以外の人たちがどう関わっていけるのかが大切になるという考えをお伺いし、僭越ながら委員長という立場を務めさせていただきました。

海士の地域・福祉の未来を考える会で議論を深め、デイサービスの現場を体験させていただく中で、海士の福祉が抱える課題の大きさが分かってきました。人口流出、過疎高齢化、国家予算の緊迫化が進む中、「既存の福祉」の充実だけでは限界があるのではないかと、ということ。団塊の世代が平均寿命を迎える約20年後には、福祉を支える設備や人材が不足し、生まれ育った故郷を離れ、本人が思い描くような最期を迎えられない方が増えていくかもしれないということ。そんなことが分かってきました。

アフリカの諺にこうあるそうです。

「お年寄りを1人失うことは、図書館を1つ失う事よりも大きい」

長年一生懸命働き、今日の海士を築き上げてこられ、先人の知恵をたくさん受け継がれてきた人生の先輩方が、最期まで心豊かに生きられるためにはどうすればいいのか。

これはもう、海士の福祉の関係者だけで解決できることではなさそうです。福祉関係者のみだけではなく、地域全体の方々が支えあうことで既存の福祉の充実は今まで以上に尽力し、さらに「生き生きと死ねる島」という新たな方向性も模索していくことを、今回の活動計画では織り込もうということになりました。

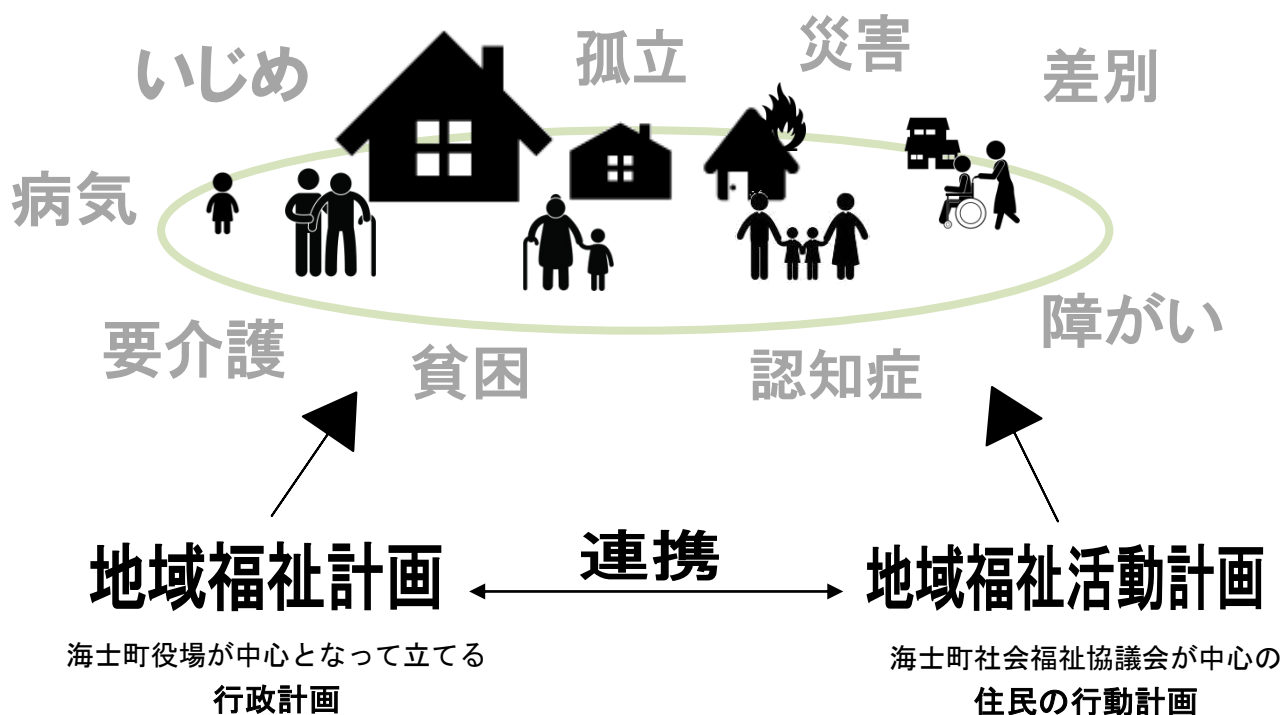
話は変わりますが、私は8年前に海士に移住してきました。その理由は、海士には都会が経済成長の中で失ってしまった、人間らしい生き方のできる社会がまだ残っていると思ったからです。お金やものなど目に見える価値だけを追い求めるのではなく、自然と共に生きる知恵や人への気遣い、感謝など目に見えない価値を大切にしている海士に住み続け、目に見えない価値を自らも守り、その大切さを日本中に広げていきたい。そう思いながら日々働いています。

既存の価値観に捉われるのではなく、1人1人が本当の豊かさを享受し、生きていくことのできる地域社会を、海士なら築き上げることができると信じています。そのためには、地域に住む1人1人が自分にできることを小さく積み重ねることが大切になります。その積み重ねるものは、福祉であったり、教育であったり、産業であったりと、色々とあっていいのではないのでしょうか。

「福祉」×「あなた」。何が浮かびますか？共に考え続け、実践していきましょう。

何故、地域福祉活動計画が必要なのか？

人は誰でもその地域で安全に安心して生活することが大切です。しかし、その人を取り巻く環境（地域）には、その生活が困難になる要因がたくさんあります。海士町役場や海士町社会福祉協議会、また住民の皆さまは、できる限り地域からその困難になる要因を無くすことに努め、事前に予防する必要があります。



住民の誰もが地域で安心して暮らすことができるよう、海士町では**地域福祉計画・地域福祉活動計画**を策定しています。「地域福祉計画」は海士町役場が中心となって策定する行政計画です。「地域福祉活動計画」は海士町社会福祉協議会が中心となって策定する住民の行動計画です。どちらの計画も相互に連携しています。

計画期間は5年間で1期としており、今計画は**第3期**の計画となっております。地域の課題は時代と共に変化していくため、5年で一度見直すこととなっておりますが、場合によっては期間途中で修正することがあります。

平成27年4月～平成32年3月までの5年間

法的根拠はこちら↓

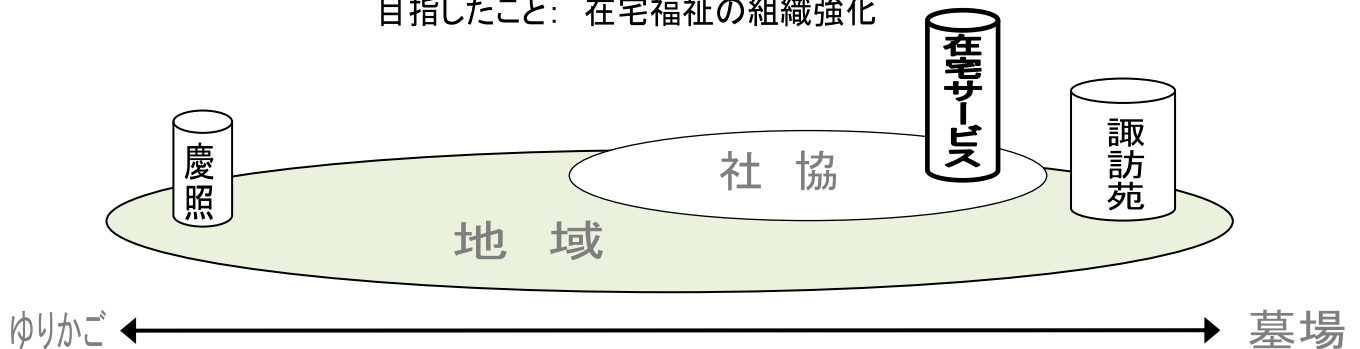
（地域福祉の推進）

第4条 地域住民、社会福祉を目的とする事業を営業者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスが必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

今までの地域福祉活動計画はどうだったのか？

第1期地域福祉活動計画（平成17年4月～平成22年3月）

目指したこと：在宅福祉の組織強化

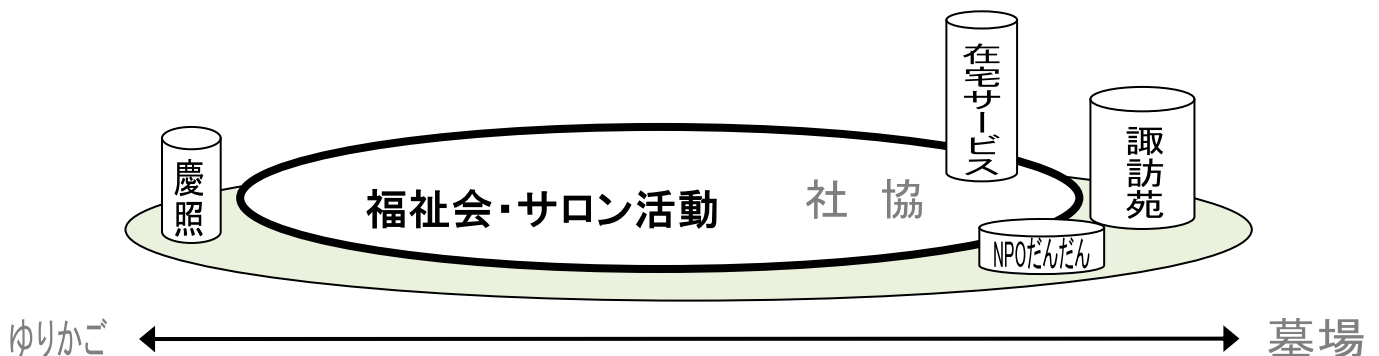


介護保険制度が始まってから5年が経ち、高齢社会が本格到来した時代です。福祉の専門性が求められ、介護支援専門員や介護福祉士など介護に携わる人たちの資質向上に努めました。慢性的な施設不足により諏訪苑の増床やグループホームの

新設、海士町で2か所目となる生活支援ハウスの建築を計画したのもこの期でした。地域に根差した様々な在宅サービスメニュー（出前デイサービス等）を考案しました。

第2期地域福祉活動計画（平成22年4月～平成27年3月）

目指したこと：地域と福祉のネットワーク化



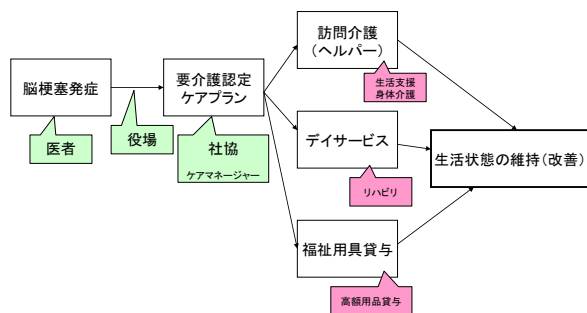
地域の福祉課題が多様化・複雑化し制度の狭間で対応ができない事例に公的サービスの限界が明らかになってきました。平成20年3月に厚生労働省が「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」を発足、地域福祉の意義を国として示しました。海士町社会福祉協議会では既存の福祉会の

形態を改革し、全ての世代や住民が関わることのできる新たな福祉会を各地区で立ち上げ、祭りやイベント等を通じて、地域のつながりを作りました。人づくりとして座談会や福祉の大発表会、保育園から高校、専門学校までの一貫した福祉学習も始めました。

現在の海士町から考えられること

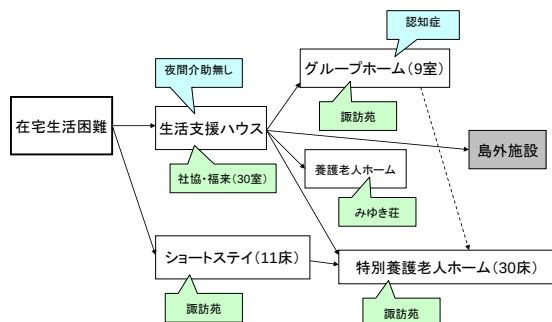
海士町では一人暮らしの高齢者や高齢者のみで構成される世帯の増加による老老介護が常態化しています。島内に介護者（家族）がいない高齢者も多く、家庭の介護力が低下しています。しかし、社会資源（福祉資源）が多いわけではなく、要介護状態になると下のようなチャートをとります。

要介護者の在宅生活モデル



在宅で脳梗塞を発症した時の一般的な例を紹介します。海士診療所から役場（包括支援センター）に連絡が行き、介護保険の認定申請・認定の後、社会福祉協議会（ひまわり）のケアマネージャーがケアプランを作成します。在宅での公的福祉サービスは訪問介護（ヘルパー）・通所介護（デイサービス）・福祉用具貸与のみでそのサービスの組み合わせで生活課題の改善と現状維持を目指します。

要介護者の施設生活モデル

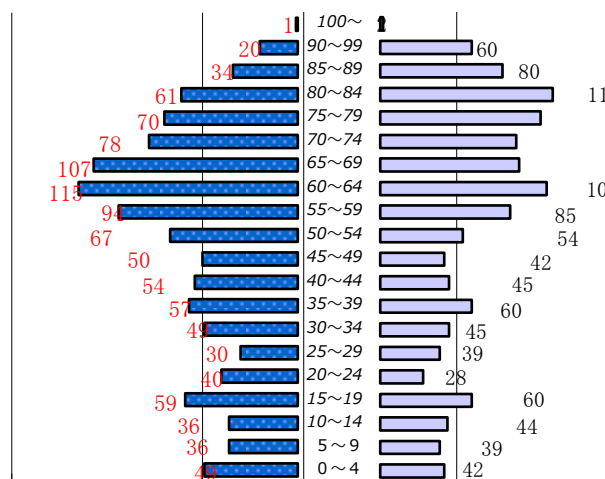


海士町には施設サービス（宿泊サービス）の種類は4種類あります。基本的に自立して生活できる人が入居要件の「生活支援ハウス」、短期間宿泊介護サービスを受ける「短期入所」、認知症専用の「グループホーム」、介護度3以上が入所の要件とされる「特別養護老人ホーム」です。そのほかに西ノ島に「養護老人ホーム」があります。いずれも満床状態です。

日本全体にいえることですが、高齢者を支える世代が圧倒的に不足しています。親を支える子どもたちの世代の多くが、海を越えた本土で生活を送っている海士町（離島）では切実な問題です。家族が居ない状態なうえに、福祉サービスが少なく、現場は慢性的な福祉人材不足のために、サービスの制限をかけている状況で、利用したくても、待機しなければならないことがあります。

男1,107人

女1,232人



H26年3月31日の海士町人口ピラミッド

福祉だけで福祉を考える限界

海士の地域・福祉の未来を考える会

平成26年10月、海士町社会福祉協議会の職員で、第2期海士町地域福祉活動計画の評価と海士町の現状を確認し、福祉の専門職視点で地域・福祉の未来を考えました。認知症の問題や現場職員の不足、福祉資源の再構成などが議論されましたが、結局は福祉の専門職だけで地域を支えるのは限界が来ているという考えに至り、他の業種を交えて同じ課題を検討する必要があるとの結論に達しました。

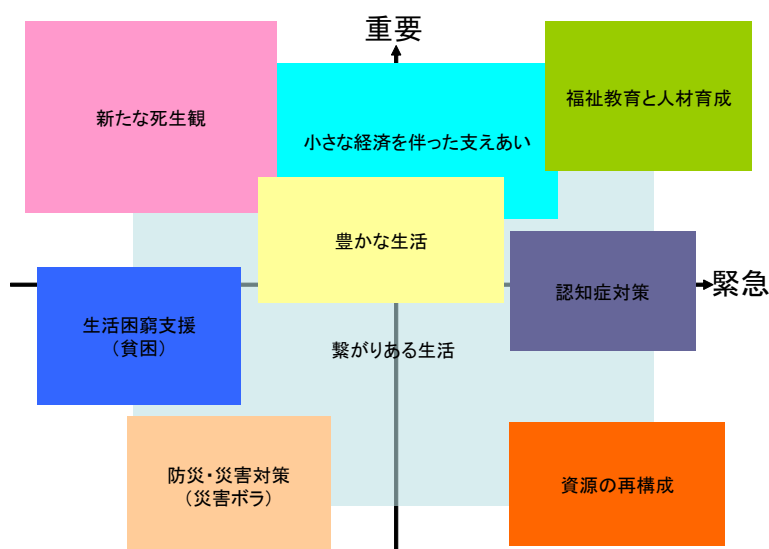


海士町社会福祉協議会職員による第2期計画の評価と海士町の福祉課題を検討している様子



「海士の地域・福祉の未来を考える会」が発足、海士町で活動する様々な業種の方で構成された。委員長は阿部裕志さん。

平成26年11月、海士町の地域・福祉の未来を一緒に考えてくれる住民を公募、海士町社会福祉協議会の職員、行政担当課長を加え20名で「海士の地域・福祉の未来を考える会」を立ち上げました。福祉の現状を勉強しながら、自分が置かれている環境で何ができるかを話し合いました。ショッキングな福祉の現状を様々な業種が知恵を出し合い、福祉の専門職者だけではおそらく出ないだろう発想が飛び交い、目指すゴールが見えてきました。



海士町で活動するさまざまな専門職者と海士町社会福祉協議会が出した海士の地域・福祉の未来のために取り組まなくてはならない項目を「重要度」と「緊急度」の優先順位を示した図。

※資源の再構成とは、福祉法人合併を視野に入れ施設の連携業務のこと

見えてきた理念

福祉 ×



福祉はどんなイメージですか？

「自分の世界と違う」「専門的な領域で関わりにくい」「敷居が高い」といったイメージが多いのではないのでしょうか。

しかし、海士町の地域・福祉の未来を考えたとき、みなさまの身近に分かりやすく、福祉を取り入れていただく必要があります。

そのために福祉×□を理念にみなさまの様々なシーンに福祉を掛け合わせて地域福祉を計画いたします。

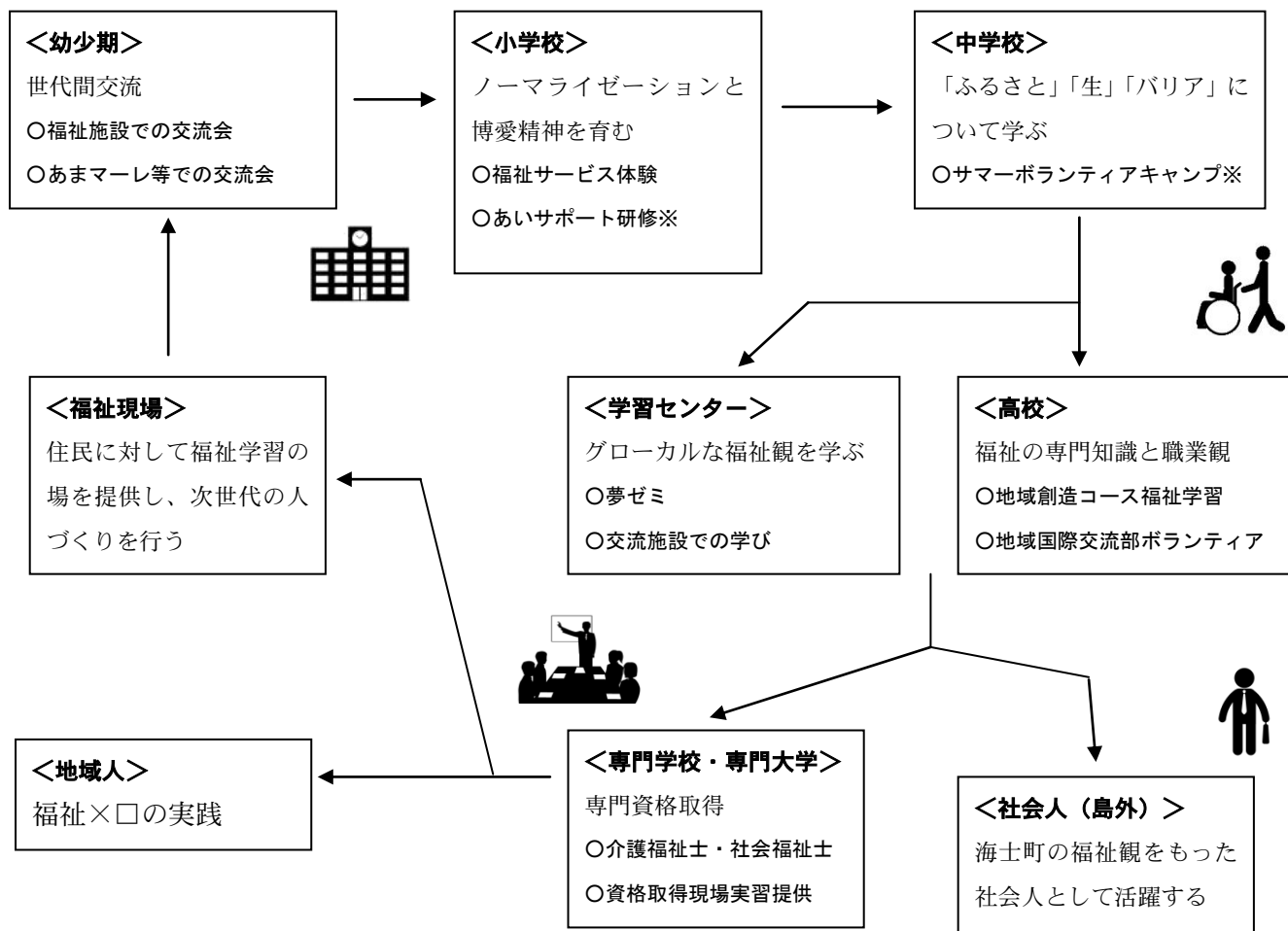
□の中の言葉は何でもいいです。□の中の言葉と福祉が掛け合わされることで、福祉のイメージがより身近に感じることができると思います。

□の中に入る言葉の幾つかの例を紹介していきます。

福祉 × 学び

福祉を身近に感じる一つ的手段に「学び」があります。全ての住民が福祉を学ぶことで、島全体が福祉の心に満ち溢れることができるでしょう。また、福祉の専門職者の育成も島の大きな課題でもあります。福祉の学びの中から、専門職に進む人が出れば福祉人材の育成にもつながります。福祉の専門職者は全ての住民に福祉を学ぶ機会を提供し、住民の皆さまは様々な場面で福祉を学んでいただきたいと思います。

【海士町の成長過程における福祉学習の流れ】



※あいサポート研修・サマーボランティアキャンプについては、海士町社会福祉協議会のホームページをご参照ください
<http://www.acsw.sakura.ne.jp>

<その他の活動の例>

- 3 法人合同の住民座談会の福祉学習
- 住民の体験学習を受入れる【3 法人※】
- 島外の人から福祉を学ぶ【巡の環・NP0 ウブドベ】
- 介護者の集いや介護教室の実施【3 法人】

※3 法人とは海士町社会福祉協議会・諏訪苑・だんだん

海士町福祉教育のスパイラル



海士町の一貫した福祉教育は、その教育を受けた子が専門職となり、福祉教育をするようになる。

福祉× つながり

「地域で大切なことは何ですか？」と調査をすると「つながり」と回答する人は多いでしょう。つながりは時代関係なく地域福祉の重要なキーワードであることは間違いありません。今回の計画も様々なつながりをもった地域・福祉を考えました。皆さまは福祉×「つながり」を考えた時どのようなことが必要だと思いますか？

【海士町新たな繋がりシステムの提案】

この新たなシステムは島中の得意なことを、集めてつなげます
それは、ほんの些細なコトでいいのです
ちょっとだけできる！ということが大事
このシステムは無償であることを前提にしたつながりです



住民の皆さまに、得意なことの登録をしていただきます。登録機関がイベントや人とつなげるコーディネートしてくれます。もちろん、参加する、しないは自由です。



考えられる登録機関

- 集落支援員
- ボランティアセンター



<その他の活動の例>

- 困る前につながっている仕組みづくり
【集落支援員・社会福祉協議会による遊び場づくり】
- 障害があっても祭りやスポーツ大会に参加できる
【住民や企画者・参加者の意識改革 教育委員会】
- 地域に入りやすい仕組みづくり
【排除しないつながりづくり 海士町社会福祉協議会】
- 島外など離れていてもつながるシステムづくり
【ITによる遠隔装置の導入検討 巡の環】

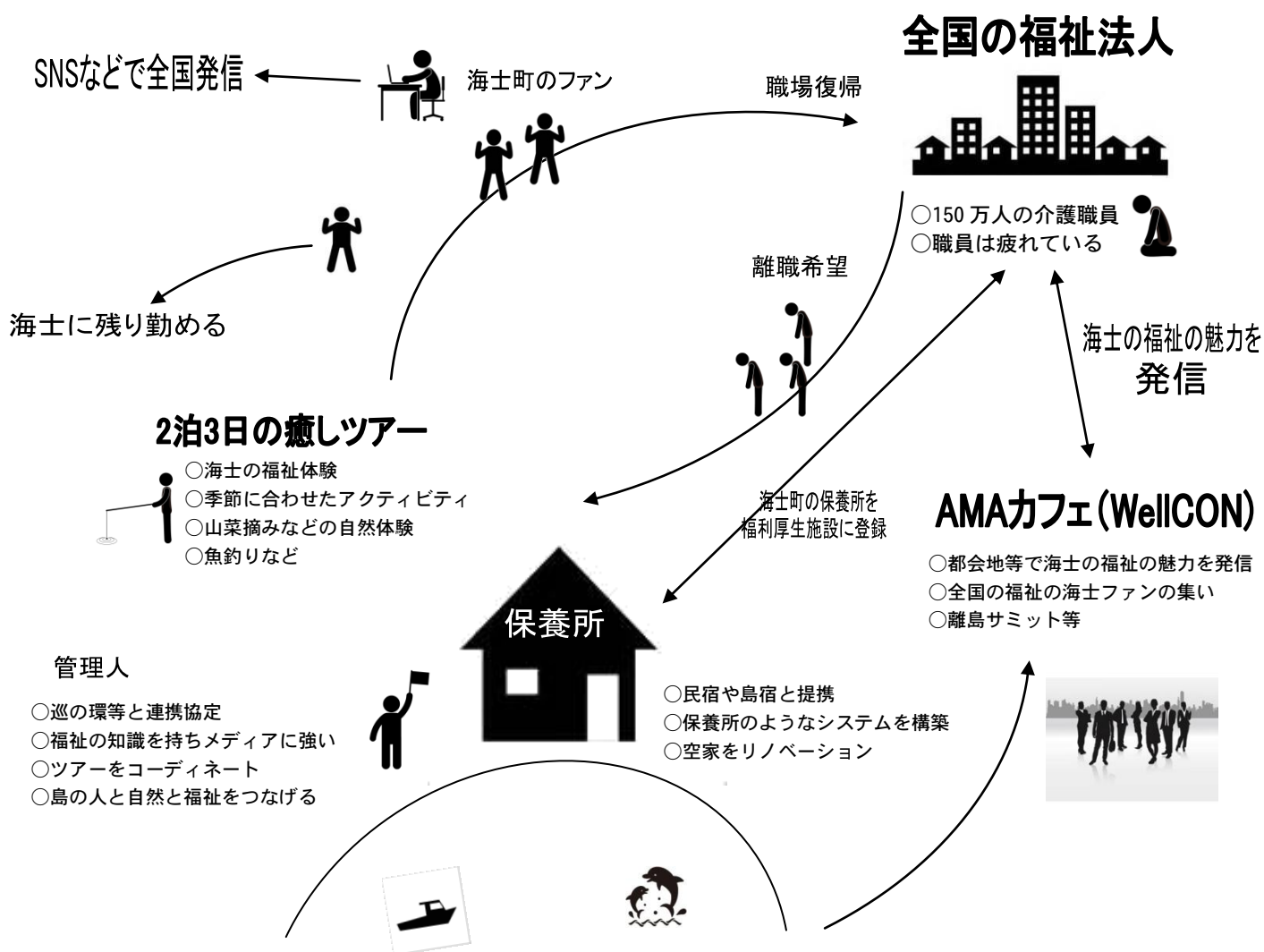


この案は集落支援員さんとつながりがある方がされているとくいの銀行を参考にしました。http://sapporo.tokuinobank.net/

福祉 × 人材

福祉人材の確保は地域・福祉の未来で一番の課題であるといっても過言はないでしょう。少子高齢化は少ない力で多くの高齢者を支えることを意味し、日本全体で喫緊の課題となっています。海士町においてもIターン等の転入により高齢化率は横ばいとなっていますが、一人暮らしや高齢者のみの世帯は相変わらず増えており、今後も増え続けることが予想されます。各福祉施設の慢性的専門職不足は未来への最大の不安要因です。

【都心から福祉人材を呼ぶ Chillworks 海士システム イメージ】



<その他の活動の例>

- 海士版 WellCON (福祉のトークイベント) の開催
- 【3法人※ 役場 巡の環】
- 島の福祉体験 (福祉体験ツアー)
- 【巡の環 島根総合福祉専門学校】

※3法人とは海士町社会福祉協議会・諏訪苑・だんだん

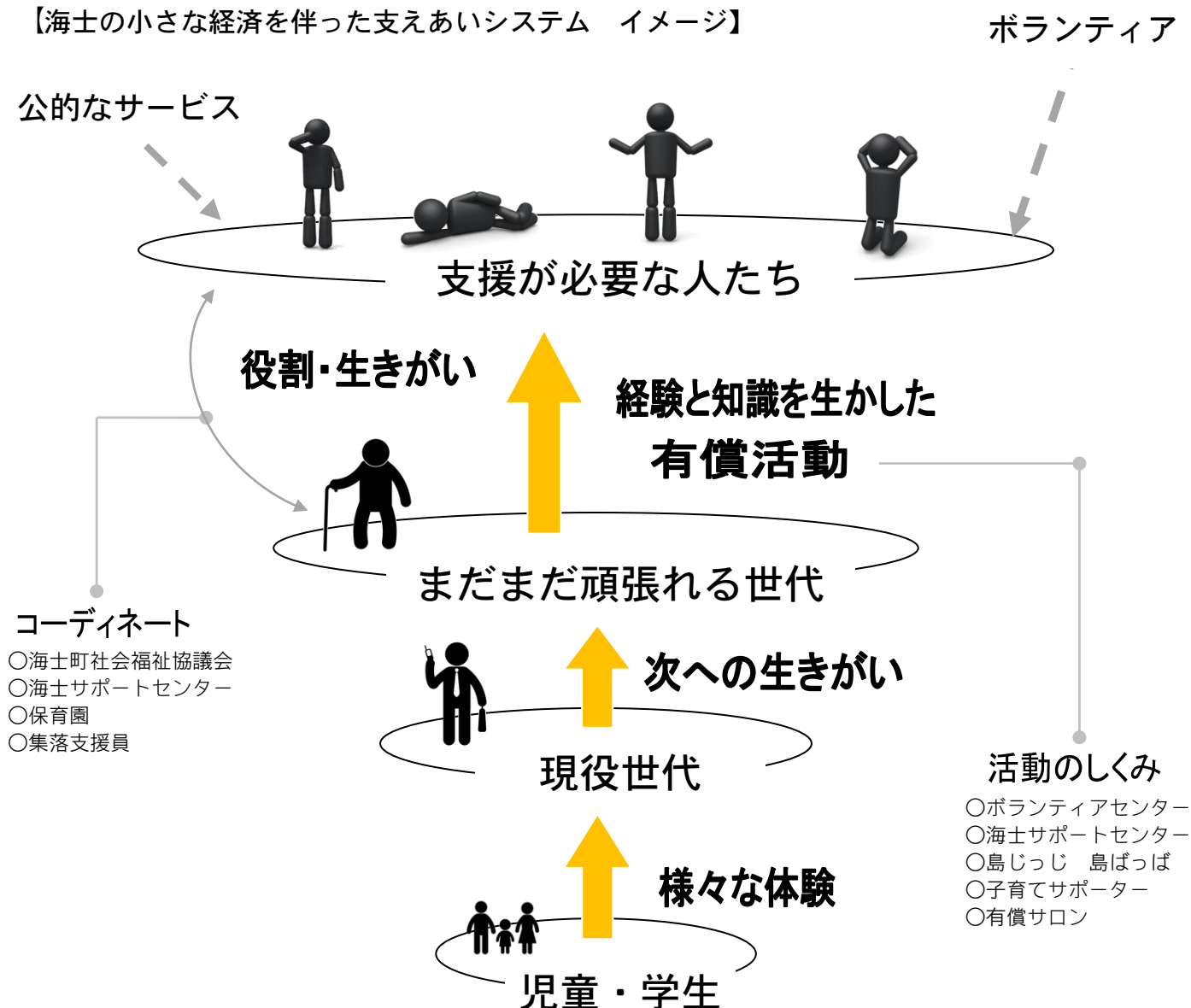


海士町に東京から福祉人材が行き来するシステム構築のためのプロジェクト (H27_3)

福祉 × 小さな経済

無償のつながりを基本に地域づくりを進めてきましたが、ちょっとしたお金が動くとなつながりが強くなることがあります。人口の少ない海士町は現役を引退した世代がその経験や知識を生かして福祉活動に参加することが大変重要です。制度狭間の課題を有償ボランティアで解決しなければ島の課題を無くすことはできません。

【海士の小さな経済を伴った支えあいシステム イメージ】



<活動の例>

- 現役引退世代の有償ボランティア活動
【ボランティアセンター 保育園 海士サポートセンター】
- 高校が海士サポに登録して有償ボランティアを行う
【島前高校・海士サポートセンター】
- 地域による有償サロンの開催
【地域サロン 福祉会 デイサービスセンター】



島前高校2年生は高校生の有償ボランティアで住民と繋がる計画を提案した (H27_3)

福祉 × 発信

福祉の世界は情報発信が下手だといわれます。個人情報を守ることにとらわれ過ぎている、基本的に真面目な分野なので発信情報が面白くない、などその理由はいくつかありますが最大の理由は、福祉の専門職は情報発信技能を持ち合わせていないということです。ケアプランや業務日誌は書けても広報やインターネットを利用して情報を発信することをとても苦手としています。しかし、福祉の情報は住民の暮らしに直結することが多く、福祉のイメージを誤解なく伝えるために福祉を上手に発信する必要があります。

【海士町新たな福祉発信システムの提案】

海士町民の定番となったローカルテレビ あまコミュニティチャンネル(11ch)に福祉のコーナーを設けます。月2回程度、福祉施設の様子や最新の福祉情報番組などを福祉の現場からお茶の間へお届けします。



＜その他の活動の例＞

- あま社協ニュース等の広報紙の発行
- 【海士町社会福祉協議会】
- facebook 等 SNS を活用した情報提供
- YOUTUBE を活用した福祉の動画作成
- ホームページの有効活用

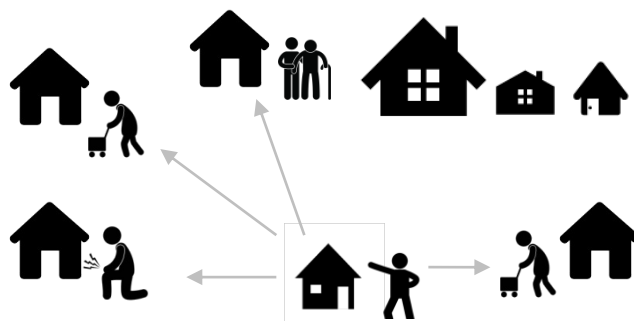


あまチャンネルの取材を受ける海士町社会福祉協議会の職員

福祉 × 集落介護員

「集落介護員」とは海士町の自治会区に配置して欲しい、新しい仕組みです。海士町には現在、特別養護老人ホーム30床、グループホーム諏訪苑9室以外では看取りをできる施設はありません。しかし、施設は満床で、誰もが入所できる状態にはありません。要介護状態になって「わがとこ」で生活したくても、在宅福祉のヘルパーでは全てがフォローできず、デイサービスも日中だけしか利用できません。

そこで、各地区に1名「集落介護員」を配置します。海士町を一つの施設、自分の家がベッドと考え、見守りだけでなく、実際介護をしてくれる介護員が住んでいけばいいのではないか、という発想です。その介護員は誰がなるのか？その報酬はどうするのか？どこまで対応するのか？夜も対応して、いつ休むのか？実現するには課題も多く、今回は「集落介護員」が実現するための実証と検討の5年間にしたいと思います。



集落介護員のイメージ

×福祉

漁業 ×福祉

島の産業で漁業は無くすことができません。しかし、漁師の高齢化や継承者不足は今後、海士町で美味しい魚を食べることができなくなることを意味します。漁師がたとえ支援が必要な状態になっても、漁に続ける方法（車いす対応船による漁など）を福祉と漁業と一緒に考えていきます。

観光 ×福祉

海士町の観光客が増えることは、経済的な効果だけではなく、海士のファンが増えるということです。障がいをもった人はどうでしょうか？海士町で快く過ごすことができるでしょうか？福祉と観光がマッチすることで、バリアフリーのまちづくりができます。障がいをもった沢山の海士ファンが増えることは、海士町が豊であるだけでなく、住民も福祉マインドが向上するということです。



刺し網を視察する車いすの利用者

商工業 ×福祉

地域の暮らしは、商店や事業所など商工業抜で考えることができません。買物支援や高齢者・障がい者に対する支援など福祉と商工業者が一緒に考えることで、ユニバーサルデザインの地域づくりが実現できます。暮らしを支えるという視点で、商工業と一緒に考えていきます。

防災 ×福祉

海士町防災計画に基づき、災害ボランティアセンター設置マニュアルを整備します。民生委員の災害時に一人も見逃さない活動を継続し、災害に強い地域づくりを行います。また、住民の防災意識向上のための防災研修も定期的に行います。

これまで紹介したのは一例にすぎません。これら以外でもたくさんのキーワードが入ります。

× 福祉

地域・福祉を福祉の専門職だけでは地域課題を解決できないと、福祉に様々な言葉を掛け合わせてきました。

福祉と別の言葉をかけ合わせると、そこにできる言葉はもう福祉ではなくなっているかもしれません。

福祉を難しく考えず四角の中に「あなた」自身を入れてください。

住民一人ひとりの生活の中に、少しでも「福祉」が掛け合わされたときとても素敵な島になることでしょう

× 福祉

福祉課題への対応

福祉の専門職が行うべき地域の福祉課題対応を提案します。

認知症

認知症高齢者は全国的に増加傾向にあり、海士町でも 200 名程度の人が認知症と診断されています。海士町は鳥取大学との連携事業で早期発見や早期治療につながっています。医療と保健・福祉が連携し認知症予防や認知症になっても安全に生活ができる専門的なサポートを行います。また、住民への理解を促すためのイベントを開催します。

【認知症サポーター養成 ・ 認知症を理解するイベントの開催 海士町役場 海士町社会福祉協議会】

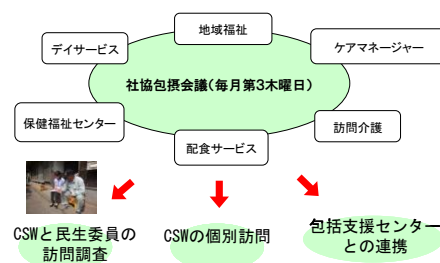
生活困窮

平成 27 年 4 月に生活困窮者自立支援法が施行されました。これは生活困窮者が生活保護に陥らないための第 2 のセーフティネットといわれ、自立相談支援事業という就労やその他自立に関する相談業務を行います。この事業は海士町役場が行い、海士町社会福祉協議会はその自立に伴う様々なサービスや地域での実態把握に努めます。また、認知症などにより判断がつきにくくなった方のための支援も一層強化します。

【生活福祉資金貸付制度・日常生活自立支援事業・法人後見へ向けた検討 海士町社会福祉協議会】

海士町社会福祉協議会では毎月 1 地区民生児童委員とフィールド調査を行っております。また、社会参加しない方や福祉サービス提供する上で、気になる情報を毎月第 3 木曜日に社協包摂会として情報共有を行い、支援の方法を検討しております。今後もこのシステムを継続し、地域の実態把握に努めます。

地域の困難事例を共有し支援する



在宅福祉

海士町の在宅での死亡率は 4 割、諏訪苑を含めると、年間死亡者の約 7 割の方が海士町で最期を迎えられます。この数字は入院施設がない離島であるにもかかわらず、他の地域と比べても満足できる数字です。海士町ならではの医療・保健・福祉の包括的な支える仕組みによるもので、今後も訪問介護や通所介護・福祉用具貸与等の在宅福祉サービスを充実しつつ、包括的なケアの推進を図ります。

地域福祉活動推進組織

第 2 期の地域福祉活動計画は福祉会を各地区に設置しその支援が基本的理念でした。結果 14 地区中 12 地区に地域福祉推進組織が設置され、様々な活動を行ってきました。これは第 3 期計画も踏襲し、福祉会への活動支援を行ってまいります。全ての区民が参加できる福祉会（地域福祉活動推進団体）のあたり前の活動が見守りや緊急の対応につながります。

まとめ

第3期の地域福祉活動計画は第1期、第2期で進めてきた在宅福祉・地域福祉に福祉×□という形で他の分野を取り入れ、島まるごと福祉の精神で5年間、仲間作りを進めていきます。下の写真を見てください。この写真は本計画を策定するにあたって、策定委員がインプロという即興寸劇をつかって未来の地域・福祉を表現しているものです。真中にいる一人暮らしで支援が必要な高齢者を、自分の今置かれている実際の環境で何ができるかを表現しています。



「仕事の休憩時間にお茶を飲み行く（大工）」や「おじいさんをインタビューし格好いい映像をつくる」など福祉専門職では考えないような発想が出ました。この絵を海士町で作っていきたいと思います。それが第3期の海士町地域福祉活動計画です。

そして・・・「生き生きと死ねる島」へ

海士の地域・福祉の未来を考える会の最終目標はもう少し先にあります。海士町に住む人々が自分のやりたいことをして、自分が望む死に方ができる島になることです。今期の5カ年で検討と実証を行い、実現を先の目標としました。この第3期計画は「生き生きと死ねる島」に向かうための5年計画と考えています。

海士町の地域・福祉の未来を考える会

(海士町地域福祉活動計画・社協、生活支援活動強化方針実践プラン策定委員会)

氏 名	所 属	備 考
阿部裕志	巡の環	委員長
岡部有美子	巡の環	
豊田庄吾	隠岐学習センター	
中畑満	商工会青年部 部長	
寺田理弘	集落支援員	
井村佐知	集落支援員	
辰巳雄基	集落支援員	
濱中香理	海士町役場	
小坂真里栄	海士町役場	
今村真理	海士町診療所	
濱見優子	海士町役場	オブザーバー
長尾朋子	福来の里	
佐々木裕之	海士町社会福祉協議会	
瀧川千恵子	海士町社会福祉協議会	
佐々木紀美	海士町社会福祉協議会	
岡本真実	海士町社会福祉協議会	
和泉洋三	海士町社会福祉協議会	
藤田幸子	海士町社会福祉協議会	
榊原信也	海士町社会福祉協議会	
片桐一彦	海士町社会福祉協議会	事務局

第 3 期 海士町地域福祉活動計画

平成 27 年 3 月

社会福祉法人 海士町社会福祉協議会

〒684-0403 島根県隠岐郡海士町大字海士 3969-1

TEL08514-2-0010 fax08514-2-0600

Mail ama-syakyo@snow.ocn.ne.jp